

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル修道院

2018年12月

348号

『靈性センターニュース』

来年度の郵送お申込みのご案内

愛読者の皆様

いつも『カルメル靈性センターニュース』をご愛読くださり、心より感謝申し上げます。このささやかな冊子は皆様のあたたかなご支援によって支えられております。

来年度（2019年1月～12月、8月休刊のため11冊）の『靈性センターニュース』の郵送を引き続きご希望される方は、下記の振替口座に2,750円程度の献金をお振込みいただければ、幸いです。

（郵送料込みで1冊250円の献金とすれば、11冊で2,750円程度の献金となります。）

郵便番号口座： 00910-6-33318

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、混乱を避けるため、年間の「郵送申込」か、純然たる「靈性センターへの献金」かをご明記ください。また氏名、郵便番号・住所、電話等もお忘れなく。お問い合わせは、事務局の方へ電話かファックスかe-mailで、お願いいたします。

また、既にお申込み頂いている方、ご献金頂いた方へ重複したお知らせとなりますこと、お詫び申し上げます。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
e-mail: reisei@carmel-monastery.jp

『カルメル靈性センターニュース』編集長
九里 彰神父

目次

来年度の郵送お申込みのご案内	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	27
東京	28
名古屋	31
京都	32
北陸	36
諸所の企画案内	37
郵送お申込みのご案内	48
編集後記	49

心の泉



宇治カルメル修道院



第三卷

第十五章 望むことについて、どうおこない、どう語るか

3 神のみ旨を果たす祈り

《ああ、慈悲深いイエス、あなたの恵みをお与えください。神の恵みよ、「つねに私と共にあり、私の日々の苦勞を助け」(知恵9・10)、また、最後まで私を導いてください。あなたが、もっとも好まれることを、つねに私に望ませ、あなたのみ旨が私の望みとなるようにしてください。そして私の意志をつねにみ旨に従わせ、完全に一致させてください。私の望むこと、望まないことが、必ずあなたと同じでありますように。あなたの望まれること、望まれないことを、私にも望ませ、あるいは望ませないようにしてください。》

この世のすべてのことに死に、あなたのために、軽んじられ無視されることを好むようにしてください。すべての望みにまさって、あなたのなかに憩い、あなたにおいて平和を見いだすようにしてください。あなたは、心の真の平和であり、唯一の休息です。あなたがおいでにならないと、すべては辛い不安なものになります。その平和、至高、永遠の善であるあなたにおいてのみ、「私が平和と休息を見いだしますように」(詩篇4・9)。アーメン。》

第十六章 まことの慰めは神にのみ求められる

1 この独白

《自分の慰めとして想像し望むことを、私はこの世ではなく、来世に期待している。私がたとえ、この世が与えるすべての慰めをもち、その喜びを味わえるとしても、それが永続するものでないことは確実である。私の魂よ、貧しい者の慰め主であり、謙虚な者を高められる神においてのみ、十分に慰められ、あり余る幸せを得ることができるのである。》

私の魂よ、しばし神の約束の実現を待て、そうすれば天においてあらゆる豊かな善を味わうであろう。もし今、地上の善をむさぼるなら、永遠の天上の善を失うであろう。ただ地上のものをを用いるにとどめ、その望みの的に、永遠のものだけを置くのである。おまえは、地上のはかないものには、それが何であっても満足し得ない。おまえは、そのために造られた者ではないからである。

幼きイエスを迎えて おめでとうございます！

ここまで 小さくなられた神を
わたしは恐れることはできません
わたしは愛する 幼いイエスを！
～リジューのテレーズ～



この子は泣いています
ごらん かれはあなたを呼んでいます
大声でわたしに呼びかけて
何を わたしに求めるのですか
「かれを愛しなさい かれはお前を愛し
おまえのために 寒さにふるえているから」
ごらん かれはあなたを呼んでいます！
～アピラの聖テレサ～

おん子は 今度 馬小屋にではなく、
わたたちの心に お生まれになります
おん子こそ インマヌエル、
「わたしたちと共におられる神」なのですから。
～三位一体の聖エリザベット～

よいご降誕の祝日をお迎えください！



伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美 (15)

くのり
九里 彰

創世記3章にある原罪の物語は、罪惡の起源が神にではなく、人間自身にあることを伝えようとしていると思われる。いわゆるミドラッシュという手法であり、現在、この世を覆っているさまざまな罪惡の根源を、神話的な物語によって解釈・表現していると考えられる。人類史の最初に実際起こった史実として文字通りに取ることは、子供じみていないだろうか。

いずれにせよ、食べてならないと神から命じられた「善惡の知識の木」の実を食べる決断は、人間の自由意思による。そのまま食べないでいることもできたが、木の実自体がいかにもおいしそうであり、食欲をそそり、また蛇の言葉にそそのかされることによって、木から実をもぎ取り、食べてしまうのである。

その実がリンゴであろうとイチジクであろうと、どうでもよいことである。因みに、エデンの園はどこであったかを確かめようとする学者もいるそうであるが、これまたナンセンスである。

この時、人間の認識機能は正常に働いていることが前提されている。「善惡の知識の木」は「善惡の知識の木」として、他の木とは区別された木として、感覚器官を通して認識されている。その実はおいしそうではあるが、神の命令に逆らって取って食べてはならないということもわかまえている以上、知性や意志といった精神的な諸能力も働いていると言える。

その意味では、原罪前のこの段階は、人間では、幼児期の段階と言えるかもしれない。対象を認識しているのだが、はっきりとした自他の区別ができていない、「わたしはあなただ、あなたはわたしだ」といった状態である。(動物でも自分の好物を認識し、獲物を捕獲するために頭を使う。堅い殻を割るために、猿は石をつかい、鳥は高い上空から岩の上に実を落とす。また犬に「オアズケ」と言えば、ご馳走の前で「ヨシ」と言われるまで、食べないで待っている。原罪は犯さない。)

ところで、禁断の木の実を食べたとたん、「二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はイチジクの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした」(7) というのである。どういうことか。その木の実に特別な薬効があり、今まで見えなかったものが見えるようになったということではないだろう。

これは、前回も指摘したように、自他を区別する自己意識が発生したことを意味すると思われる。神の命令に逆らう行為を通して、自分が自分であること、アダムはアダム、エバはエバであることを自覚したのである。

(続く)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（130）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」（7）

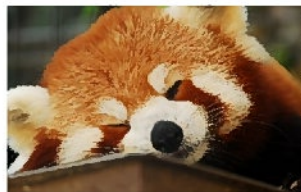
創造された環境の中で人間は成長するのですが、その環境には、「キリストの影」によってその痕跡が残されています。人間の真の仕事は、この印章に自分自身をあてはめることです。神の姿（み顔）によって、神は人間を、また全宇宙をご覧になったのであり、その姿は、キリストの目なのです。十字架のヨハネにおいては、figuraは、顔以上のもの、目を意味していることを忘れてはなりません（CB11 参照）。十字架のヨハネの同時代人で学友であったセバスティアン・デ・コヴァルビアスは、彼の『カスティリャ・スペインの言葉の宝庫』の中で、次のように言っています。

「“figura”は、主に本質的な部分である顔と見なされている。それによって私たちは互いを識別するのである」。

被造物が美をまとわされ、美しさの印章を押されていることを、観想者はすべての物事に見出すのです。彼は、その美を「神のみ顔(figura)の超自然的で無限の美から派生し与えられたものとして（見出す）。神がご覧になる時、全地上はおろか、全天国は美と歓喜で包まれるのである。同様にダビドも、『あなたは、み手を開いて、あらゆる生物を祝福で満たされる』（詩 144,16）と言っている」（CB6,1）。ここから、宇宙は神の愛で満ち、浸されているということとの間にはまったく距離はありません。さらに十字架のヨハネは、次のように完璧に表現しています。「神がご覧になることとは、神が愛することであり、恵みを与えることである」

（CB19,6 ; 31,5.8 ; 33,7）。

こうして、被造物を眺めるこの知恵に満ちた優れたヴィジョンをもって、環境を観想することにより、十字架のヨハネは、弁証法的に生物学者のルネ・デュボアが「フランシスコ的保護」と「ベネディクト的組織」と呼んでいたヴィジョンに参加することになります。アシジの聖フランシスコやヌルシアのベネディクトへの象徴的な言及に、もう一人十字架のヨハネを加えるべきでしょう。



エディット・シュタインにおける女性の霊性（4）

ハビエル・サンチョ神父（OCD）

2. 女性を定義する諸特徴

これらの諸原理を前提としながら、エディット・シュタインは、補完的な、男性という性を決して忘れることなく、女性という性の特殊性に関する議論を行なうのです。その考察を続行するために、——それは、女性がその役割を意識するようになるためだけでなく、キリスト教的な良い教育の諸原則を確立するためにも、きわめて重要となるでしょう——、彼女は、女性の異なる特性に関する理論を支える他の人文科学を利用することでしょう。

「母となる」という使命と共に、女性は、この召命を見事に果たすために、特別な仕方であらかじめそのような身体といくつかの精神的な性質を受け取っています。母性は、単なる身体的形態より、ずっと深いものです。それは、女性の存在様式を決定しています。こうして、その現実認識の様式は、直観的体験的であり、具体的なものや生命あるものへと方向づけられています。生命のないものは、それ自体ではなく、生命のあるものに役立つ限り、女性の関心を引きます。女性の思考は、男性に対して、感情に伴われていることによって、特徴づけられます。すなわち、女性の思考様式は、心に伴われているのに対し、男性はずっと容易に事柄によって動かされるのです。

ここに、近代の女性が求める主要な権利要求を全面的に正当化する人間論的基礎があるのです。すなわち、その存在は、まさに事物化を避けるために、すべての職業分野で必要とされるのです。女性を無視する社会、階層は、公のものであれ私的なものであれ、人類の主要な諸価値の一つを失っているのです。女性的な要因の現存は、単に補完性によってだけでなく、両性が一つとなることのみが、神の真の像を再生し、神のみ旨を成就するという意味でも、不可欠なのです。

「女性の力は、愛情深い（情緒的）生活です」。この主張によって、エディット・シュタインは、次のように言おうとしています。すなわち、一方

では、女性は、愛し、愛される深い必要性を感じ、息子への全面的な献身のように、また教育者・養成者のように、「母性」を遂行していくためによりふさわしい者とされています（そして広い意味と昇華によって、この仕事は、身体的母性の領域外で、よりふさわしく実現されています）。他方で、この精神的形態は、女性が自分の情念に引っ張られるという危険に陥らないために、特別な教育を必要としています。この二重の「懸念」は、女性に関する彼女のすべての著作にはっきりと現れています。

女性の人との関わり方も、男性のそれとは異なります。創造の物語（創2・18）から、エディットは、女性の創造に関する「ふさわしい助け手」という主張を取り上げます。彼女はこれを伴侶として理解します。「彼女の素質や喜びは、他の人間の人生を分かち合うことであり、疑いもなく、最も大きな事柄も最も小さな事柄も、悲しみも、しかしまたその人の仕事や問題も、彼らに関係するすべてのことに参与することなのです。男性は”事柄“へと向かい、それゆえ、奉仕のための関心や知識を他者から期待します。男性は一般に、他者の面倒を見ること、他の人々の事柄にかかりきりになることは難しいのです。逆に、女性には、それ自体奇妙に思われる事柄を決して不快に思うことなく、その人への関心から、その人に感情移入（エンパティア）し、理解しながら、それらの領域に入り込むことが、自然にできるのです」（ESW V, 5）。

これによって、私たち著者は、すべての女性は必ず妻となり母とならなければならないと主張するつもりはありません。彼女が「伴侶」や「母」について語る時、女性の伝統的な身分を擁護することにとどまっていません。彼女が目指していることは、女性性を形づくる諸側面、女性それ自体を定義するところものを理解することです。そこで次のことが説得力をもって提示されているのです。すなわち、どんな身分を生きようとも（独身、結婚、奉獻聖別）、またどんな職業につこうとも（典型的に男性のものと思なされている職業も含め）、女性は、その場で、女性性を実現することができなければならないということです。それを放棄するならば、自分の存在の発展にブレーキをかけ、人類から女性性という賜物を奪うことになるのです。そして女性が公的生活に存在することによって、社会には何の変化ももたらされないことでしょう。

（続く）

待降節 第1主日

(ルカ 21 : 25-28、34-36)

「放縦や深酒や生活の煩いで、心が鈍くならないように注意しなさい」とイエスは言われます。何かにおぼれてしまう時、私たちの心はうつろになります。食べたり、飲んだり、遊んだりすることは楽しいことですが、度が過ぎた時「おぼれ」という状態に陥ります。楽しいはずのものをとおして、かえってうつろな鈍い精神状態になってしまうのです。そうやって幸せに感じる人はまずいないでしょう。

イエスが教える喜びは、そのような類のものではありません。「喜びなさい、大いに喜びなさい」と語るイエスは、心の貧しさ、悲しむこと、柔和さ、義の渴望、隣れみの心、心の清さ、平和への貢献、義のための迫害という幸いの道を教えました(マタイ 5・3-12)。一見すると楽しそうでない生き方ですが、それが幸いであり、喜びであるというのです。しかし、このイエスの道はどんなに追求してもおぼれることはないでしょう。むしろ、追求すれば追求するほど、精神は冴え、神様を賛美し、愛や謙遜、柔和が磨かれ、よろこびが湧いてくるのだと思います。必然的に逆境が伴うため、それがかえって、きりりとした味わいを与え、人の精神を高めるのだと思います。

パウロも、「神の国は食べたり飲んだりすることにあるのではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです」と語っています(ローマ 14・17)。

また、かの日に、イエスにいちばん喜ばれることは、イエスの兄弟の一人である小さな人にしてあげたいつくしみの業に他なりません。飢えた人に食べさせ、渴いた人に飲ませ、裸の人に着せ、宿のない人に宿を貸し、病気の人を見舞い、牢にいる人を訪ねることです(マタイ 25・35-36)。これを日常でどう実践するかが私たちの課題です。教皇様は、これは「福音の脈打つ心臓であり」、キリスト者は「これをまっすぐに開いた心で、注釈なしに認め、それを引き受ける」べきだと語っています(使徒的勧告「喜びに喜べ」97番)。

「心が鈍くならないように注意しなさい」、「いつも目を覚まして祈りなさい」とのイエスの警告は、この世におけるいろいろな快樂追求に節度を与え、イエスの教える福音的な価値に目覚めて生きるということだだと思います。快樂追求で鈍くなった精神状態で終わりの時を迎える人は後悔に襲われますが、真福八端を生きる目覚めたキリスト者は終わりの時は解放の時となり、再び来られるイエスとの決定的な出会いを喜び祝えるのだと思います。

待降節が始まりました。自分の生活を見直し、少しでも快樂に節度を持たせ、イエスが教えた生き方の中に輝く幸せを追求していきましょう。

(今泉健神父)

待降節 第2主日

(ルカ3：1-6)

「手を伸ばしなさい」と言われた。伸ばすと、手は元どおりになった。

「彼らは、彼を注目していた」。公の宣教の初めにキリストはすでにファリサイ派の人々から激しく反対を受けていました。麦畑で彼らを黙らせ、再び彼らに立ち向かうために勇敢にシナゴグに入っていきます。そこではファリサイ派の人々がいちばん尊敬を受けていて、キリストを咎めるため安息日の律法に反して病気を癒すのを見ようと、全ての彼の動きを注目します。ファリサイ派の人々はキリストをしっかりと観察していました。キリストから学ぶためや、神を賛美するために正しい心で行ったのであればそれは善いことでした。私たちは自分の生活の中でどれほどしっかりとキリストを注目しているでしょうか？日々の出来事を通してキリストの働きにどれほど気づいているでしょうか？キリストが私たちの中に行っている偉大なことのために神をどれほど賛美しているでしょうか？

善を行おうことか、悪を行うことか、キリストはファリサイ派の人々に迫ります。キリストは恐れることなく、萎えた手の人を呼びます。それから二つの質問をします。一つ目は「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか、悪を行うことか」です。彼らは律法で善を行うことが許されていることを認めざるを得ません。悪を行うことが律法で許されているとは否定せざるを得ません。しかも、助けることが出来る人を惨めなままに放置することは悪いことです。キリストは次に突っ込んだ質問をします。「律法で許されているのは、命を救うことか、殺すことか？」キリストはこの惨めな人の命を救うために行動を起こし、ファリサイ派の人々はキリストを殺す方法を考え始めます。人を殺そうと考えるよりも助けようとするほうが善いことです。彼らが何も言えなかったのは当然です。

福音にはキリストが怒ったことはめったに出てきません。ここのキリストの怒りはファリサイ派の人々の偽善と心のかたくなさによって起こされます。彼らは救いのメッセージから心を閉ざしています。キリストに断固として心を閉ざすときどうなるでしょうか？ファリサイ派の人々は律法とユダヤの風習の守り手で、ヘロデ王とローマ人とが組んだヘロデ党の敵でした。しかしこの福音では、これら二つがイエスを殺す計画のために力を結集したという事実を述べています。彼らは善の本来の力によってではなく、悪の力によって結ばれたのです。ときに私たちは偽善や、嫉妬、憎しみなどに譲歩してしまいます。これらは徐々にキリストへの私の心を硬くします。私はキリストのように勇気を持ち、福音のために激しい反対に耐えているでしょうか？

(Sr. Paulina)

待降節 第3主日

(ルカ3：10－18)

待降節は12月17日から第2の時、直前の準備の時を迎えますが、今日はその前日。今日のルカ福音の箇所は、イエスの到来、救い主メシアの到来を人々に準備させるため、神から遣わされた洗礼者聖ヨハネが、群衆に語った出来事が述べられています。

前半部分はヨハネが人々に悔い改めを説き、具体的にどの様にすれば良いかを語り、群衆からの質問に対しては人々に愛を示す様に、徴税人には不正に取り立てない様に、兵士には武力をもって、また騙して金を取ったりせず、給与で満足する様にと諭します。ヨハネが人々に語った勧めは、決して実現が不可能な勧めではなく、普段の生活の中でできる勧めです。

このヨハネの勧め、言葉、聖書のみことばは、私たちの心にどの様に響くでしょう。私たちも主のご降誕を迎えるにあたって、ヨハネの言葉に耳を傾け、自分の日常生活を振り返り、正しく誠実に生きる様にと諭されている様に思いますがどうでしょうか。

そして後半部分は、人々は悔い改めを説くヨハネが、実は救い主メシアではないかと考えていたことに対して、自分はメシアではないこと、メシアはどんな方であるのかを人々に述べます。そして更にヨハネは水で洗礼を受けるけれども、後から来られる方、優れた方、救い主メシアは、聖霊と火で洗礼を受ける…という大きな違いがあることを語ります。ましてや自分にはその方の履物の紐を解く値打ちもないとも。

待降節の歩みは、単に「まだ来ない」「早く来て欲しい」などと受け身で歩む歩みではありません。来られる方のことを思いながら、積極的に待つ歩みです。私たちが自分の生活を振り返り、正しく誠実に生きるならば、それがイエス様への何よりのプレゼント、神様への心からの贈り物になるでしょう。私たちがみことばに耳を傾け、生き方を改め、良い準備のうちに、神の子として相応しく待降節を歩んでゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

待降節 第4主日

(ルカ 1 : 39 - 45)

“あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。”

マリア、待降節に見倣うべき方：キリストを迎える準備をする待降節に模範とすべき方はマリアさまです。天の御父はマリアが母の胎内に宿られたその瞬間からご自分の御子の母にふさわしく準備なさいました。マリアは幼いころからイスラエルの娘の一人として救い主の来臨を心から祈り続けていました。乙女になったとき、自分が、神のこの祈りを成就なさるための大事な存在であることを知りました。しかしそれは神の計らいによって、他のいかなるヘブライ人の娘たちの祈りよりもはるかに超越した存在となるものでした；救い主がマリアの胎内に宿って世に来られるということ、その上その方は真の神、天の御父の独り子でいらっしゃるという事実です。大天使ガブリエルから神のお告げを聴いたとき、戸惑いのうちにも心からの承諾を表すマリアの“成れかし”は、救い主イエス キリストご降誕の直接の始まりとなりました。わたしたちもマリアの信仰からから逆り出たお応え、“成れかし”を心に留め、マリアの観想の鼓動に耳をかたむけ、神との交わりのうちに待降節を過ごしましょう。一番初めのクリスマスと同じ喜び、主の祝福と恵みに満ちたクリスマスを迎えるために。

神の思いを丁寧に心に留め、直ちに実行する方、マリア：大天使ガブリエルが去った後すぐに、マリアは自らの決断で、遠い山里に住む親戚のエリザベトのところへ急ぎます。マリアの大きな愛は、神の望みと直感したことを直ちに行動に移し、エルサレムの外 60 マイルも離れたエリザベトのところへ向かわせました。この不可能にも見える危険な旅をためらわず行うマリアは、神の望みを何よりも大切にする姿を示しています。マリアはどんな犠牲を払ってでも助けを必要としている者を助ける方でした。これはマリアの生まれながらの、生涯変わらぬ姿でした。

マリアのような宣教者でありなさい：キリストをもたらす！胎内の小さなイエスと共にエリザベトを訪問するマリアは最初の宣教者となりました。人類の歴史を全面的に変える福音を最初にもたらした方だからです。マリアはエリザベトとその胎の子洗礼者ヨハネに、はっきりとした信じられないほどの大きな喜びをもたらしました。この喜びを共にしたマリアの心からあの美しい祈り、“マグニフィカト”が湧き上がったのでした。マリアのように、マリアと共にクリスマスの喜びを周りの大切な人々にもたらしましょう、心に幼いイエスを抱いて。わたしたちの最大の贈り物、それはキリストです。キリストは永遠に変わることのない真の喜び、平和、幸せをもたらす方！

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 12月

主において常に喜びなさい。

(フィリピの信徒への手紙 4・4)

迫害の手が身に迫り困難を極める中、使徒パウロはフィリピの信徒たちに手紙を書いています。

その中でパウロは、自分の愛する信徒たちに、殆んど命令するかのように「重ねて言います。常に喜んでいなさい」と語ります。

でも、「常に喜びなさい」と命じることなどできるものでしょうか？

私たちの周りを見回すなら、心安らかではられない状況を目にしたたり、喜びなど到底感じられないこともしばしばです。

日常生活の不安や心配事、社会の不正、国家間の紛争などといった現実を前にして、私たちは圧倒され、落ち込んで自分の殻に閉じこもらないようにするだけでも、かなりの努力が必要です。

にもかかわらずパウロは、私たちにもこう語りかけるのです。

主において常に喜びなさい。

パウロは、いったい何を根拠にこのように言えるのでしょうか？

キアラ・ルービックは、語っています。「どんな困難にせよ、私たちが常に喜んでいられる理由が一つあります。それは、キリスト者として真剣に生きることからくる喜びです。

キリスト者として懸命に生きることによって、他ならぬイエスご自身が、私たちの内で完全に生きようになるからです。

『イエスと共にいる』これほど大きな喜びが他にあるでしょうか。

イエスは、の喜びの源です。私たちの人生に意味を与え、光をもって導き、過去の出来事、将来私たちを待ち受ける試練や誘惑、これら全てを乗り越える力を私たちに与えて下さり、不安や恐れから解放して下さいます*1

キリスト者の喜びは、単なる楽観主義でもなく、豊かな生活が保障されているからでもありません。健康でとした若者にある喜びとも違います。

それは、心の深くで「神と出会う」ことからくる喜びです。

主において常に喜びなさい。

パウロは続けます。この喜びがあるなら、自ずと他の人を温かく迎え、自分の時間をそのために使うようになるでしょう*2と。

そして別の箇所で「受けるより、与えることの方に、より大きな喜びがある」*3 というイエスの言葉を明記しています。こうして、イエスと共にいることからくる心の平和は、周りの人に伝わっていきます。

最近の出来事です。シリアの多くの若者たちが戦禍の中、身の危険も省みず、福音の経験分かち合い、相互愛の喜びを体験するために集いました。彼らは集いの後、そこでの体験を周りに証しする決意を胸に帰途につきました。

一人の参加者が話してくれました。

「すべてを失った人、最愛の人が殺されるのを目にした人など、悲しみ、希望、英雄的な神の愛への信仰が次々に語られました。

その後、『いのち』を周りの人々にもたらそうとする若者たちの熱意に動かされた多くの人の協力で、各地でフェスティバルが開かれました。それだけでなく、若者たちは、戦争で中断された学校の校舎や公園の修復のためにも働きました。また、多くの難民の家族のために支援の手を差し伸べました」と。

この経験をきいて、キアラの次の言葉を思い出しました。

「キリスト者の喜びは、ちょうど、涙のあとに輝く太陽の光のよう、あるいは、血に染まった大地から咲き出る一輪の薔薇の花のようです。

その喜びは、苦しみから抽出される愛の真髄。その喜びは、唯一で、しかも天の国の前触れのように、使徒的な力に満ち溢れています」*4

戦禍の中で、周りの人々に、神の愛への信頼と希望を証しするシリアの若者の姿に、初期のキリスト者たちの力強い証しをみる思いです。

シリアの皆さん、ありがとう！

レティツィア・マグリ

*1 キアラ・ルービック、喜びへの招き、チッタノーバ誌 31(1987/22)p.11

*2 フィリピ 4・5 参照 *3 使徒言行録 20・35 参照 *4 キアラ・ルービック、若者の聖年、ローマ 1984 年 4 月 12 日

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い *詳細は各フォコラーセンターまで。

関東	12月 9日(日) 藤沢	13:30 ~	カトリック藤沢教会 204号室
	12月 13日(木) 調布	10:00 ~	お昼ごろまで カトリック調布教会
	12月 13日(木) 川崎	13:30 ~ 16:00	個人宅 (044-888-7091 山崎)
中部	12月 19日(水) 戸塚	14:00 ~	個人宅 (045-825-1065 枇杷) (週日に吉祥寺でも)
	12月 8日(土) 名古屋	14:00 ~	カトリック緑ヶ丘教会 (緑区)
九州・沖縄	12月 9日(日) 瀬戸	14:00 ~	瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや
	12月 2日(日) 鹿児島	14:00 ~ 16:00	カトリック谷山教会 (鹿児島市)
	12月 16日(日) 長崎		クリスマス会 長崎市、場所時間未定
	12月 16日(日) 沖縄	14:00 ~ 16:00	カトリック開南教会 要理教室 (那覇市)
	12月 17日(月) 奄美	14:30 ~	個人宅 (0997-57-1871 薩)
12月 21日(金) 奄美	14:00 ~	個人宅 (0997-53-7641 松下)	

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157ch1.wix.com/focolare-jp

いつの頃からでしょうか、ハロウィンという言葉が巷に聞こえ始め、お店のショーウィンドに南瓜の行灯や南瓜のお菓子が並んだのは。

そしてそれは年を追うごとの賑わいとなり、子どもたちが仮装してまるで縁日のような雰囲気です。商店街を歩き来し、お店の方でもそのためのお菓子を用意して、「ご馳走して！悪戯するよ！」と戸口に立つ可愛らしい魔女やモンスターを迎えたのは。

やがて徐々に盛大に盛大になり、小さな子どもたちのみならず主役は若人たちの祝祭となって巨大化して・・・それからそれからです。

先日のテレビの渋谷交差点の映像は度肝を抜くもので、唾然として見とれるばかりでした。街いっぱい埋め尽くす膨大な仮装行列の塊、うねり。

保安の厳重警戒に立ち並ぶ大勢の警察官。後日のニュースによると一部暴動ともなって逮捕者もでたといいいます。

キリスト教のお祭りですかと訊ねられたりしますが、いいえカトリック教会は関係ないのです。バレンタインデーは？ さあ、よくわかりません。クリスマスは関係あります。キリストの降誕祭ですと話しながら、複雑な思いで祝祭の日をあらためて思いました。

実に私もキリスト教徒となる以前にも、何ひとつ気がかりはなくクリスマスパーティーを大いに騒ぎ楽しんでいたので。ずっと長い間・・・

日本の年末は神様のにも大忙しと時に皮肉をもって言われます。メリークリスマスと杯を上げてきよしこの夜を歌い、ほどなく除夜の鐘をしみじみと聞いて百八煩惱を除き、新年を迎えては初詣に向かう。それでも宗教がどうのこうのと頓着無く、平らかに大らかに暮らし行く心のさまを、私は好ましくも思っているのです。

国境もなくひとつの言語を話し、心に満ちる美しい四季の暦があり、そこに伴う豊かな歳時、祝祭は、ここに生まれた私たちの全身いっぱいにいるいと連なり刻まれて、深く深く沁みとおっているのでしょう。

青春、朱夏、白秋、玄冬—— 謂れの詳細を知らずとも文字を眺めるだけで目に美しく、心は肯き、思い浮かべるそれぞれの景色は果てない広がりをもって私たち一人ひとりの生活を人生を映すに相違ありません。

私たちは四季を人生に重ねなぞらえたりしないでしょうか。

そういう私はもはや玄冬も終わりにあるのですが・・・

にぎにぎしいハロウィンの翌日、カトリック教会は「諸聖人の祭日」次いで「死者の日」を迎えました。11月は教会の暦最後の時であり死者の月とされ、天上の教会の諸聖人を祝い、すべての死者のためにミサが捧げられます。

私たちは天上にある懐かしい人への尽きせぬ想いを込めて祈ります。

人となられた神さまの愛の中で、天と地はいつも深く交わっていますが、死者の月は特に深い交流を思います。

日本の美しい四季に彩られた歳時、暦が、生まれて此の方いつの間にか身に心に浸透しているように、私のもうひとつの歳時、暦である教会暦も、いつの間にか同じようにして身に心に浸透したようでした。キリストの愛は典礼暦を通して常に今ここで示され、私に深く触れ、私を覆いつくしてきたのだと、知っています。

玄冬も終わりに席を持つ身にとって、死者の月はことのほか親近の想いが深くあり、黙想は静かに自ずと訪れて天と地のあらゆる境界は薄れゆきます。

死者の月は、次に来る誕生という新しい出会いを待つ清らかな希望につながっているはずで、黎明のよろこびのなかにあるのだと思うのです。

死は誕生であるといえないでしょうか。

一年間の暦の中歳時記に、点灯する光のような祝祭の日（ハロウィンもバレンタインデーも）は、宗教を云々してもしなくとも生きてゆく私たちのいのちのエネルギーを支え、よき方向へと導くもうひとつのエネルギーの存在を感じさせてなりません。思い深めてみれば、私たちの日常生活全てがそのもうひとつのエネルギーの内に入り、祝祭の日なのかもしれないと、今思います。

死者の月に読んだ（というより拝聴した感じです）パパ様の使徒的勧告「喜びに喜べ」の最後の頁は「天使祝詞」で締めくくられていて、とても感激しました。

マリアさまには何も説明する必要もいらない、繰り返し、そっと口にするだけでよいのですと、優しいパパ様は優しい言葉をかけてくださっています。

アヴェ、マリア、恵みに満ちた方・・・

わたしたち罪びとのために 今も 死を迎える時も お祈りください

（上野毛教会信徒）

糸巻き棒からペンへ(37)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

聖女はこれらの心の奥底の体験を、人に気づかれないように努め、聴罪司祭だけに伝えていたにもかかわらず、神秘的な恵みが増すにつれ、根も葉もないうわさや無理解が町の中に広がっていきました。そこで、再び感じていたことを説明しようと詩を利用したのです。

何と悲しいことでしょう、私の神よ
あなたなしの人生は
あなたに会いたくて
わたしは死んでしまいたい

何と道は長いのでしょうか
この世の道は
つらく骨のおれる逗留
非常に厳しい流刑の地
おお、愛する主よ
ここからわたしを救い出してください
あなたに会いたくて
わたしは死んでしまいたい…… (P 6)

詩が天国への渴望を表すために役立つならば(「私の内に生きることなく私は生き / 崇高な命を待ち望む / 死なないゆえに私は死ぬ…」)、神が望まれることのみ望むと告白するために、またその作品が一人の靈魂でも救うために役立つならば(「わたしは、あなたのもの。わたしはあなたのため生まれました。 / わたしに何をなすようお望みなのでしょうか。」)、この世の終わりまで地上にとどまる覚悟があると告白するために、詩を用いるのです。

4. 創立者としてのテレジア

二十歳の時、テレジアはカルメル会の修道女となりました。多くの選択肢はありませんでした。つまり、同時代の多くの女性—彼女の母親も含む—のように、産褥で死ぬまで夫に仕えるか、修道女になるかでした。

(続く)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

2018年11月5日

イエスの聖テレジアの祝祭年 アビラとアルバ・デ・トルメスで閉幕



聖テレジアの祝日を日曜日に祝ってもよいと、アビラとアルバ・デ・トルメスに対して、教皇フランシスコによって認可された、初めての聖テレジア祝祭年が閉幕しました。

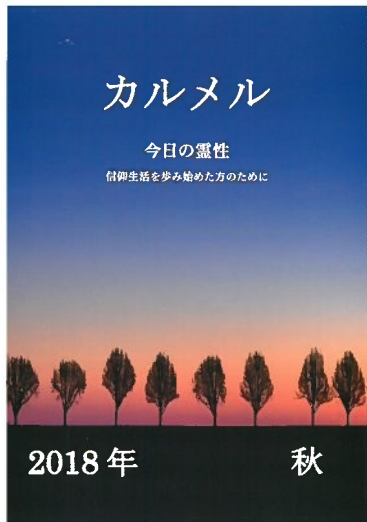
アビラでは、ノベナ（9日間の祈り）とカテドラルで行われた閉幕のミサ（教区のヘスス・ガルシア・ブリッジョ司教の司式）の間、10月15日に、跣足カルメル修道会副総長アウグスティ・ボレル神父の司式による荘厳ミサが捧げられ、続いて聖女の御像の行列が市内をねり歩きました。

アルバ・デ・トルメスでは、儀式は、サラマンカ教区のカルロス・ロペス司教の司式による荘厳ミサによって開始され、その後行列が行われました。この祝日の8日後、10月22日には、ミゲル・マルケス神父司式によるミサの後、伝統として、聖女への心を込めたお別れの行列が現地の大通りで行われました。

今年はアビラとアルバ・デ・トルメスへの巡礼者が大変多く、中でも注目されたのはスペイン国王フェリペ6世が9月19日に、アビラで聖年の門を通過してテレジア記念館を訪問されたことです。

両地では、これらに加えて宗教的なプログラム、すなわちカテキズム的テレジア的文化的プログラムが企画されました。アルバ・デ・トルメスでは栄誉ある業績をたたえる公開展示会が12月まで続けて行われます。

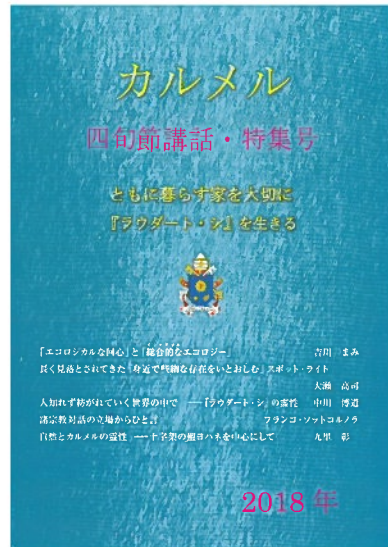
カルメル誌 新刊案内



2018年 秋号 No.370

《霊的生活への招き》

- 沈黙の祈り(念祷) 松田浩一
 信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む
 幼子の道(3)―小鳥の祈り(1) 片山はるひ
 カルメル会の会則に見る
 アシェーシスと修道生活(3) 九里 彰
 現代に響くルルドの霊性(Ⅱ)
 ―聖ベルナデッタとカルメル会とのつながり 須沢かおり
 人の生き様と結びついた祈り(2)
 ―祈りは、宗教の塊です 森 一弘
 風に吹かれて(17)―新しい自分を求めて 原 造
 キリストに伴われて季節を巡る(3) 伊従信子
 祈りを教えてください(3)
 ―マルコ福音書による「目覚め」としての祈り 田畑邦治
 「だれか熱い紅茶を入れてくれないかしら」森 みさ
 霊性研究会議義録(2)―秘跡について 奥村一朗



2018年 特集号

「ともに暮らす家を大切に」

―『ラウダート・シ』を生きる―

- 「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」 吉川まみ
 長く見落とされてきた
 「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト 大瀬高司
 人知れず紡がれていく世界の中で
 ―『ラウダート・シ』の霊性 中川博道
 諸宗教対話の立場からひと言 フランコ・ソットコロノラ
 自然とカルメル(の)霊性
 ―十字架の聖ヨハネを中心にして 九里 彰

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
 信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円(+送料180円)】程度の献金を下記
 へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬
 +特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会
 お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356



2019年のご案内

年間テーマ かかわりを広げる

特別企画

リレー対談 私と、家族と、社会とのかかわり
 晴佐久昌英（東京教区司祭）× 香山リカ（精神科医）
 関根英雄（東京教区司祭）× 宮台真司（社会学者）

以降継続

神から受けて、自分、隣人、家族へ、そして教会だけでなく、社会へと広がっていくべき「かかわり」。その愛のかかわりをそれぞれの場で今一度見つめ直し、深めるために数組の識者が対談します。

新連載

●カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎 大瀬高司（カルメル修道会司祭）

海軍軍人、また昭和天皇の側近として活躍し、日本とパチカンの外交関係樹立に貢献した山本信次郎の足跡を史料を基にたどります。



大瀬高司 師

- 詩編中の「わたしと神」／青木孝子（聖書学者）
- 典礼と信仰教育——オリエンズ典礼セミナーⅢ（4月より）
- 「先生、あの偉そうな赤ちゃん誰？」——神様をめぐる対話
小林由加（カトリック学校教員）
- 典礼暦とともに、季節の味わい／柳谷晃子（台所料理人）

月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円+税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp>



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
 - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
 - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
 - 4 脱原発の倫理／久保文彦
 - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
 - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
 - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
 - 8 関係の倫理学／清水正之
 - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
 - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
 - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
 - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
 - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

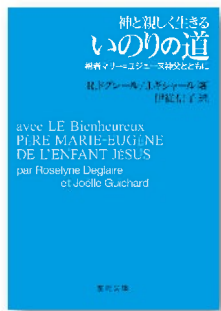
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

最新刊のご案内

修道院の風

宇治カルメル会 修士 原 造・著

競争社会の真ただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはななかった、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々、折りにふれて綴った随想の風。

著者★原 造（はら つくる）

1946年 群馬県桐生市生まれ。

1991年 男子靴足カルメル修道会入会。

1997年 荘厳誓願宣立。

現在に至る。

5月10日発行

女子パウロ会
新刊案内



B6判・128頁・定価 本体 1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0 C0016 NDC194

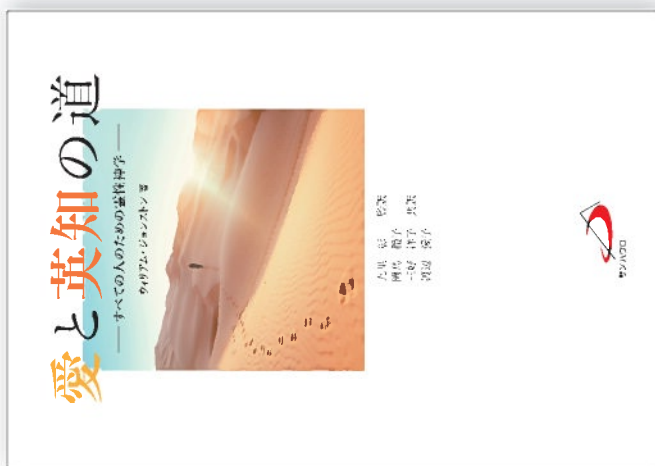
愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 福音書(1)
 - 第2章 福音書(2)
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
 - 第10章 英知と(空)
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 (愛のうちにある)
 - 第15章 花嫁と花知
 - 第16章 一 致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるからたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

使徒言行録を読む

聖霊に導かれて



14

企画・編集

京都司教区聖書委員会

使徒言行録はルカ福音書の後編として書かれ、初代教会においてどのように福音が宣教されていったかをわたしたちに伝えています。エルサレムでの初代教会、ペトロの宣教、そしてパウロの宣教と受難について述べていくことを通して、使徒言行録の本当の主人公が聖霊であることが明らかにされていきます。カトリック教会で使徒言行録についての解説がほとんどない中、使徒言行録を読んでいくための必修の講話集。



村上 透磨	はじめに
中川 博道	ペトロの宣教
一場 修	聖霊の働き
西 経一	パウロと律法
北村 善朗	パウロの宣教
鈴木 信一	パウロの受難
澤田 豊成	パウロからわたしたちへ

定価 本体 **1,400** 円 + 税

B6 判並製・232 頁・ISBN978-4-8056-3909-2

お求めは聖書委員会またはキリスト教書店で

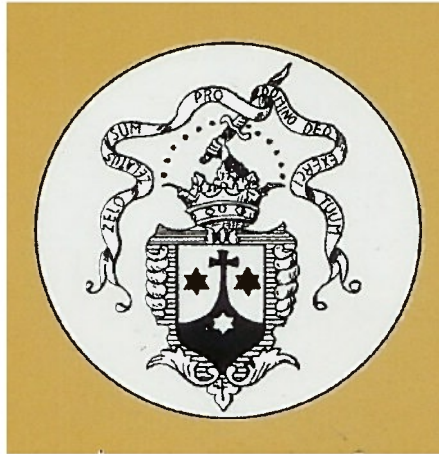
京都司教区聖書委員会

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル カトリック会館7階

TEL: 075-211-3484 FAX: 075-211-3910

E-mail: seisho@kyoto.catholic.jp

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



上野毛 霊性センター(東京) (～2019年3月)

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2018年 12月24日(月)～25日(火)朝食<講話なし、夕食なし>

聖書深読黙想会 大瀬高司 神父

2018年

12月 1日(土)夕食～ 2日(日)午後4時

日帰り黙想会 13時30分～16時 福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2018年 12月13日(木)

2019年 1月11日(金) 1月25日(金) 2月 7日(木)

2月22日(金) 3月 7日(木) 3月22日(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉献生活者のための黙想会 福田正範 神父

2018年

12月27日(木)17時～ 1月 5日(土)朝

青年黙想会(男女) 35歳位まで

2019年

2月16日(土)16時～17日(日)16時 カルメル会士



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

***** 日帰り黙想会 *****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ” とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父



*午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加……¥2000、午前からのご参加……¥3500

日時：2018年	11月 8日 (木)	午後1時30分～4時
	11月30日 (金)	〃
	12月13日 (木)	〃
2019年	1月11日 (金)	〃
	1月25日 (金)	〃 *変更
	2月22日 (金)	〃
	3月 7日 (木)	〃
	3月22日 (金)	〃

*お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル修道会 一日静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2018年 12月8日 (土) 13時から 17時

テ ー マ : マリア様とともに、神のことばを思い巡らす。

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。(聖堂には12時からお入りいただけます。)
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円 程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17
FAX 052-681-6445
E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

来年 2019 年は「土曜静修」と名前を変え、次の日程で行います。(何れも土曜日。)
1/5、2/2、3/2、4/6、5/4、6/1、7/6、(8月休み)、9/7、10/5、11/2、12/7。
原則として13時から17時まで。以下のホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・ウイリー神父・古川神父)

宇治カルメル会 (～2019年度) 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日 (午後5時～午後4時)

2019年

- 1月19日(土)～20日(日) 「何を求めているのか」 九里彰神父
6月1日(土)～2日(日) イエスと出会い直す 中川博道神父
7月13日(土)～14日(日) 「私の隣人とはだれですか？」 九里彰神父
11月23日(土)～24日(日) 現代を生きるイエスのしるし 中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

変更 ~~12月1日(土)~~ → 12月8日(土) 中川博道神父

2019年

- 1月26日(土) 中川博道神父 6月8日(土) 中川博道神父
3月9日(土) 九里彰神父 9月7日(土) 九里彰神父
4月20日(土) 中川博道神父 11月16日(土) 九里彰神父

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

12月19日(水) 私たちの内に宿りたいインマヌエル Sr.ロサ

2019年

- 1月23日(水) イエスとともに歩む新しい年 中川博道神父
2月13日(水) 「キリストの平和」 九里彰神父
3月20日(水) イエスとともに過越しを祝う Sr.ロサ
4月17日(水) 復活のイエスをさがして 中川博道神父
5月15日(水) 「だれが一番偉いか？」 九里彰神父
10月30日(水) かそけきもの Br.原造
11月27日(水) あなたは世の塩である Sr.ロサ
12月18日(水) 主が生まれる私たちのうちに 中川博道神父

【土曜の黙想】(午後1時～午後6時)

2019年

- 5月18日(土) ”我”に立ち返る時 中川博道神父
6月29日(土) ゴールは近い Br.原造
7月27日(土) 「私は復活であり、命である。」 九里彰神父
9月21日(土) み国が来ますように Sr.ロサ
10月26日(土) 「思い悩むな。」 九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】(金曜午後8時<夕食なし>～土曜午後4時)

2019年

- 1月11日(金)～12日(土) 九里彰神父
3月15日(金)～16日(土) 九里彰神父

【一般のためのカルメル霊性】 (午後5時～午後4時)

12月8日(土)～9日(日) **十字架の聖ヨハネにおける愛の変容** 九里彰神父
2019年

9月28日(土)～29日(日) **聖テレーズの黙想会** 中川博道神父

10月12日(土)～13日(日) **イエスの聖テレジア** 九里彰神父

12月14日(土)～15日(日) **十字架の聖ヨハネ** 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】 (午後5時～午前9時)

4月28日(日)～5月5日(日) **イエスとともに生きる基盤を探す** 中川博道神父

【四旬節の黙想】 (午後5時～午後4時)

3月9日(土)～10日(日) **新しい創造の時** 中川博道神父

【待降節の黙想】 (午後5時～午後4時)

12月1日(土)～2日(日) **「人となられた神」** 九里彰神父
2019年

12月7日(土)～8日(日) **「メシアのしるし」** 九里彰神父

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

12月27日(木)～1月5日(土) 中川博道神父
2019年

5月23日(木)～6月1日(土) 九里彰神父

8月5日(月)～14日(水) 中川博道神父

8月19日(月)～28日(水) 九里彰神父

11月6日(水)～1月15日(金) 中川博道神父

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30{講話なし、各食事つき}

【クリスマス】

12月24日(日)～12月25日(月)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願ひ致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願ひいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

青年の集い in Uji

……立ち止まって、聴いてみる……



『主の私への呼びかけ』

……新司祭 志村武神父様と共に……

2018年12月1日(土)10:00~16:30

対象：青年男女

参加費：500円

申し込み・連絡先：TEL 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39 - 12

メインゲスト：志村武新司祭 (カルメル会)

スタッフ：Fr.中川博道、Br. 原 造 (カルメル会)

Sr.ローザ (カルメル宣教修道女会)

宇治カルメル会 幼きイエスの聖テレジア修道院 (黙想)

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願ひ

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに56年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願ひいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子跣足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-671-1558 Fax：052-681-6445

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
詩編の会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



カルメル霊性センターニュース

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

2018年以降の予定

今後の内観は、希望者の日程や会場・修道院の都合を調整して行います。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターにお問い合わせください。

電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

(新住所)

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷺林寺町3-46 シトー会

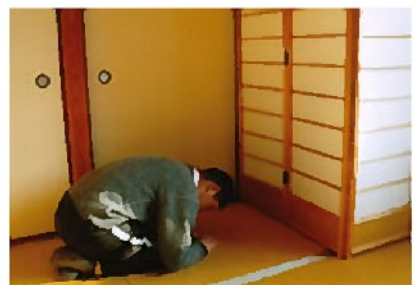
西宮の聖母修道院 司祭館

「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール fujinao1944@nifty.com

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。



真命山 2018年 — 祈りの集いのご案内

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

指導者 フランコ神父

*は聖ザベリオ宣教会ダニエロ・マルケット神父
個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月11日 五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
- 2月 8日 聖ボナベンツラの祈り
- 3月 8日 聖アンセルモの祈り
- 4月12日 聖フランシスコ・ザビエルの祈り*
- 5月10日 「サルベ・レジナ」
- 6月14日 聖心の連願
- 7月12日 ロヨラの聖イグナチオの祈り*
- 8月 休み
- 9月13日 幼いイエズスの聖テレジアの祈り*
- 10月11日 アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
- 11月 8日 シャールズ・デ・フーコーの祈り*
- 12月13日 「テ・デウム」

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



講話と祈りの集い

12月15日(土)

主よ、来てください



ここまで 小さくなられた神を
わたしはおそれることはできません
わたしは愛する幼きイエスを!

午後2時~午後5時30分

担当 伊従 信子 中山真里

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円



ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ	2019年 1/6(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ Tel 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo. co.jp ★メールアドレスが変わりました。
サダナ 新 I	1/20(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F	同上
サダナ I	2/8(金)17:30- 11(月)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市)	同上
フォローアップ	3/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F	同上
サダナ II	3/20(水)17:30- 24(日)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院	同上

※不在の場合は、渡辺由子

Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ・・・サダナ Iを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。

新しいコース

◆サダナ新 I

入門 A.B.C (サダナ I) に参加された方の引き続きの前進のために、その良さを噛みしめながら進みます。以前体験したことを復習しながらの歩み出しです。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (～2019年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018年 12月 27日(木)～2019年 1月 4日(金)
- ② 2019年 5月 5日(日)～ 5月 13日(月)
- ③ 8月 14日(水)～ 8月 22日(木)
- ④ 10月 6日(日)～ 10月 14日(月)
- ⑤ 12月 27日(金)～2020年 1月 4日(土)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2019年 2月 1日(金)～2月 3日(日)
- ② 2月 22日(金)～2月 24日(日)
- ③ 3月 15日(金)～3月 17日(日)
- ④ 6月 21日(金)～6月 23日(日)
- ⑤ 7月 12日(金)～7月 14日(日)
- ⑥ 9月 20日(金)～9月 22日(日)
- ⑦ 11月 15日(金)～11月 17日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2019年 5月 30日(木) 夕食～6月 7日(金) 昼食 小暮 康久 師(SJ)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

2018年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月26日(土)～27日(日)	マルコによる受難	山内十束師(ご受難会)
2	7月7日(土)～8日(日)	マタイによる受難	山内十束師(ご受難会)
3	2019年 2月16日(土)～17日(日)	ルカによる受難	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

ルカによる受難

2019年度 第3回 女子青年黙想会

日時： 2月16日(土) 15:00～

17日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

【入門講座】

毎週金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを取り扱います。無料

12/7 人間の弱さー罪とは何か

12/14 恵みとゆるしー神の憐れみを受ける

12/21 愛の心ーキリスト教の本質

2019年

1/11 隣人愛ー他人のうちにイエスに出会う

1/18 希望を持つ勇氣ー未来に向かって歩む

1/25 霊の動きー福音による生き方

参考書:K.リーゼンフーバー著『西洋古代・中世
哲学史』『中世思想史』平凡社ライブラリー
近代と現代におけるキリスト教と理性

2019年度

1/5 マルセル:対象認識と神秘(20世紀)

1/19 グアルディーニ:聖書のキリスト像(20世紀)

2/2 ヤスパース:実存と限界状況(20世紀)

2/16 ハイデガー:意識の構造と死への先駆性
(20世紀)

2/23 ガダマー:真理と方法(20世紀)

3/2 ラーナー:現代におけるキリスト者(20世紀)

【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。無料
2年間のコース。途中参加・部分参加も可

[イエス]

12/4 御子の受肉ー神の子と人の子

[聖霊]

12/18 神の内的現存

ー人間における聖霊の働き

1/15 三位一体の神

ー救いの構造から神内の存在へ

【土曜アカデミー】

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリス
ト教哲学・神学の相互関係を考察します。無料
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。

【神学読書会】

第2・第4木曜日:18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と
神学に関する文章を読んで、話し合います。
テキスト:第Ⅲ巻「信仰と幸いーキリスト教の本質」
随時、どなたでもご自由にご参加ください。
※祝日、8月全体、12/27は休み。

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
信仰・宗派を問わず、どなたでも。
随時の参加・遅刻も可。お気軽に。無料
※祝日。8月全体は休み。

【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室
講話、黙想、ミサがあります

12/1

2019年 1/12、2/9、3/16

【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分
クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

【夕方のミサ】

下記の月曜日 18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトゥルハイム1階右
テレジア小聖堂

12/10

2019年 1/28、2/25、3/25

【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋
2回坐り、間に講話。遅刻・不定期の参加も可。

※祝日、8月全体は休み

【黙想会】

上石神井 1泊7000円

2019年 3/9(土)10時～3/10(日)14時

申込みの締切りは、初日の10日前

【クリスマス会】

12/8(土)10時～13時

聖イグナチオ教会岐部ホール4階404

【クリスマスのミサ】

12/23(祝)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

【クリスマスの黙想】

12/25(火)18時50分～20時10分

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

—上記の日程に変更がある場合は、
信徒会館1F掲示板でお知らせします。—



《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

(上智大学名誉教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—



場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00

くのり

指導：九里 彰神父（カルメル修道会）

【2018年予定】

- 1 2月20日 「キリストの働き」
第22の歌と23の歌 その後、ミサ

『霊の賛歌』の解説はこれで一応終了します。


【2019年予定】 聖書のみことばを通して、念祷してゆきましょう。

- 1月24日 まことの家族とは
「わたしの母、わたしの兄弟とは…」（ルカ8・21）
- 3月21日 祈りと祈りの場
「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」（ルカ19・46）
- 5月16日 人間の傲慢
「だれが一番偉いかという議論が起きた。」（ルカ9・46）
- 7月25日 神の愛と隣人愛
「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）
- 9月26日 信仰と救い
「あなたの信仰があなたを救った。」
（ルカ7・50；8・48；18・42）
- 11月28日 神の愛と回心
「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」
（ルカ19・10）
- 12月19日 謙遜と従順（講話の後、ミサ）
「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



午後の静修〈講話・念祷・ミサ〉へのおさそい

〈あなたを探しつづける神〉

— 心奥深くに隠れ住むお方 —

日 時：2019年2月2日(土)
12時～16時(受付11時)

指 導：中川博道神父 (カルメル修道会)

対 象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会

をご記入の上、

FAX 又はメールにて (返信します)

定員になり次第×切

FAX:045-402-5131

e-mail: shihennokai@gmail.com

場 所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車

サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折

→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m直進

四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131 (藤井)

e-mail: shihennokai@gmail.com



『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

先日、知人を案内して金閣寺に行った。と、小学生の一群が観光客の間にはらばらとまざっている。修学旅行かとも思ったが、市内の小学校から来ているようにも見えた。皆、グループに分かれて、男の子と女の子が数人、外国の観光客を取り囲んで、英語で質問をしていた。”Where do you come from?”。答えを聞いては、世界地図にしるしをつけている。さらに”Which part of Japan do you like best?”と言いながら、日本の様々な地域の風景が載った写真パネルを見せている。食べ物のパネルを持っている子もいた。

英語も学校で十分練習をしてきたようで、とてもきれいに発音している。何よりもものおじせず、無邪気に話しかけているのがいい。外国の人もかわいい子供たちに囲まれ、ニコニコして答えている。老夫婦もいれば若いカップルもいる。家族連れの人もいれば友達同士で来た人、またまったく一人で来た人もいる。学校は英語学習のためにやらせているのであろうが、結果的に、すばらしい国際交流になっていると感じた。大人が同じことをやったら、こうはいかないだろう。皆緊張して、顔がこわばってくることだろう。無邪気な子供たちこそ、明日の世界を築いてくれるのではないか。

「はっきり言うておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない」(マタ 18・3)。

(P. 九里)



男子跣足カルメル修道会のホームページ

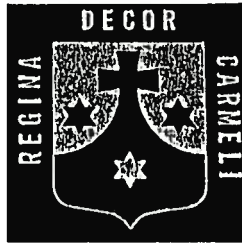
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **12月21日(金) 午前10時頃から**  
**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456